

1. 5層会議(生活支援コーディネーター・地域包括支援センター連絡会)から出された地域課題について

令和6年12月6日実施の1. 5層会議（生活支援コーディネーター・地域包括支援センター連絡会）において、市内を5つのエリアにグループ分けし、地域課題について検討を行い、市民に対する影響度及び影響範囲が大きい課題について検討・整理を行いました。

1 各グループから出された課題

各グループから出された1層に上げるべき課題としてまとめられたものについては、次のとおりです（別紙参考資料についてもご参照ください。）。

グループ	課題	理由
紅葉丘・ 白糸台 圏域	地域や事業所、行政機関などの関係者間との連携を深め、見守りの目を充実する。	支援に繋がっていない方の見守りがないと、孤独死につながるリスクがあり生命・健康への影響が大きい。
	新たな地域の担い手の発掘	専門職の関わりだけでは、見守りの充実を図れないことから。また介護予防や地域活動の継続のためにも、社会参加が必要であるため。
押立・ 是政 圏域	実態把握を含めた地域で孤立していると思われる高齢者へのアプローチ	高齢者の実態把握を含め、生活課題が何なのかを知る必要がある。そのことによって、本人の生活状況や考えが見えたうえで関わる必要があるため。
	高齢者の生活環境を悪化させないための仕組みづくり	生活環境の悪化がフレイルや寝たきりにつながる可能性が高く、そのことがもたらす影響は、生命・健康の影響も含め、本人の尊厳にも関わるため、重要視される必要がある。
新町・ 中央・ 片町 圏域	独居かつ認知症の方への支援	安否確認が出来ず、孤独死につながる可能性が高い。また、認知症関連のことを様々実施しているが、成果としてあまり現状の変化がないように感じるため。
	オートロックや戸建てでも扉が開かない家への支援	独居の場合は、安否確認が出来ず、孤独死につながる可能性が高くなるため。
武蔵台・ 西府 圏域	移動手段と買い物手段の確保	食や医療の確保が困難になることは生命・健康に大きな影響を及ぼす。市内中心部以外は同様の課題があると考えられ、市内広域の課題であると捉えた。
	地域から孤立している方の発見、アプローチ方法	孤立によって周囲に気づかれず、課題が複雑化、重篤な状況へと陥り、それがいずれ孤独死にも繋がっていくと考えられる。高齢者の孤立は、市内全域で見受けられており、今後さらに高齢者が増加していくことも踏まえ優先順位が上位であるとした。
四谷・ 住吉 圏域	つながりのない人をどうつなげるか	つながりがあれば早期発見でき、課題が複雑化する前に支援に入れるため。
	認知症の理解を深める	認知症の理解が深まれば、支え合い、つながりやすくなる、認知症の孤立も防がれるため。
	地域包括支援センターの業務の整理	つながり作り・認知症の理解促進のためには、相談・予防プランの対応に追われている現状の業務の在り方の整理が必要。

2 出された課題に関する分析

各グループから出された課題については、共通項が見られ、本市における地域課題として、次のとおり分析しています。

- **孤立を防ぐための地域連携の強化と見守り体制の充実**
地域での様々な関係者の連携を深めるとともに、新たな担い手の発掘も行う必要がある。特に、地域から孤立する高齢者は今後も増加することが予想されることから、孤独死の増加につながらないように、見守り体制の充実が必要。
- **高齢者の実態把握と生活環境を悪化させないための仕組みづくり**
課題が複雑化、重篤な状況に陥る前に、必要な支援につなげられるよう、実態を把握する必要がある。また、生活環境の悪化は、フレイルや寝たきりにつながる可能性が高く、生命・健康の影響が大きい。悪化を防ぐ仕組みづくりが必要。
- **認知症の方への理解の促進と支援方法の検討**
より一層の支え合い・つながりづくり・孤立防止のため、認知症に対する理解促進が必要。また、現状の認知症施策についての効果検証とより効果的な支援方法を検討する必要がある。

3 地域における取組の好事例について

1. 5層会議について、次のとおり、各地域における取組の好事例について共有されました。当該事例については、後日、生活支援コーディネーターを通じてフィードバックし、第2層（わがまち支えあい協議会・地域支援連絡会）においても共有していきます。

グループ	事例
紅葉丘・白糸台圏域	今後、紅白連絡会（仮称）と称して、それぞれが持っている情報交換や事業連携に向けての打合せを目的に、生活支援コーディネーターの連絡会を定期的に関催することを計画。
押立・是政圏域	包括これまにおいて、月1回、「ゆるつなカフェ」を開催して、地域住民のみならず、介護事業者、医療機関や地域の多様な人々に参加を呼びかけている。地域の多様な人々、機関・組織などが包括のこと、地域での出来事に関心を持ってもらい、包括に相談しやすい環境づくりを目指している。
新町・中央・片町圏域	包括しんまちでは高齢者の趣味や特技を活かした活動につながるように近隣施設、保育園、学校などに働きかけて協力を依頼し、手芸用品の保育園での活用や学校の花壇づくりなどにつながっている。横のつながりだけでなく、縦のつながり（多世代交流）づくりを実施し、地域のネットワーク構築に貢献している。
武蔵台・西府圏域	包括にしふにおいて、公式LINEの活用により、包括が実施していることを周知し、災害の危険がある場合にはエリア内の最新情報を流すなど注意喚起を行っている。今後は、安否確認のツールとしての活用も可能性がある。
四谷・住吉圏域	地域なんでも相談員から包括へつないだケース。地域で気になる方でなかなか介護保険サービスに繋がらなかったが、その方の身なり、活動時間の変化等わがまち、社協、包括等地域で見守り、必要時支援に入れた事例。

4 今後の予定

各グループから出された課題については、第10期計画の施策につなげることを目的とし、今後、次のとおり進める予定です。

R7年度	【1. 5層会議】課題の深堀りと計画に反映させる施策について提言 →【1層会議】に報告
R8年度	【1層会議】1. 5層会議からの提言を受け、施策の内容・方向性について協議